

S U P E R
FORMULA

STAGE

superformula.net

2019 Vol.2

INDEX

- 2019 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 千代勝正が語るコースガイド ③
- ショートインタビュー 中野信治 ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは —
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
<https://superformula.net>

JRP
Japan race promotion inc.

INTERVIEW NO.2

JMS P.MU/CERUMO・INGING
ドライバー

坪井 翔

Sho TSUBOI

前を行くものも、後ろから来るものも、足を止めることなく登って行く崖。だが、自分はその崖から足を滑らせ、谷底へと落ちてしまった。頂は遠い。「ここからどうやって這い上がるのか」。

昨年、シーズン最多勝記録を更新して全日本F3チャンピオンを獲得。今季、期待のルーキーとして全日本スーパーフォーミュラ選手権にデビューした坪井翔は、ここまで決して平坦ではない道のりを歩んできた。

物心がつく前にすでにカートのステアリングを握り、6歳の時には毎週通っていたカート場で初レース。信用金庫に勤めるサラリーマンの父、そして母にとって、一人息子の翔は目の中に入れても痛くないほど可愛かった。だが、カートを続けるにはかなりの資金が必要。カート場に通うにしても、高速道路は使わず一般道を通る。エンジンやシャシー、タイヤも長く大切に使うなど、節約に節約を重ねて2人は翔の活動を支えた。翔も負担を少しでも減らす意味もあり、小学校低学年の頃から翌年の活動費となる賞金が手に入れられるシリーズに参加。「カートを続けていれば、F1に乗れるものだ」と無邪気に熱中していたが、小学校高学年になると、資金のなさが次第に現実のものとして感じられた。

両親も翔が中学校に上がると、その先の道を考え始める。「16歳でスカラシップ生としてフォーミュラカーデビューさせなければ……」。とても

全日本カートを何年間もやらせる余裕はなかった。そこで翔は14歳の時にFTRS（フォーミュラトヨタ・レーシングスクール）を受講した。速さはあったが、年齢の問題で最終選考では落とされた。「来年、またおいで。その時は受かるから」と。

そして、15歳で再度受けたFTRSでは見事にトップ合格を果たす。ここまではますます順調だった。

ところが、FCJ（フォーミュラチャレンジ・ジャパン）にデビューすると苦戦の連続。それまでカートコースや富士のショートコースなど、小さなコースでの経験しかなく、勢いでタイムを出していた。だが、各サーキットの本コースで走り始めると、最初はどこを走っているのかも分からない。なかなかタイムも出ない。走り方を詰めていく時間は十分にはなく、タイムが出ない理由も分からないまま翻弄された。初めて「遅くて悩んだ」日々だった。結果、初年度はランキング7位。FCJ最終年となった2年目は優勝もあったが、ラ

ンキングは5位。坪井はここでスカラシップ生から外され、クビを宣告される。まだ18歳、高校3年生。その年齢で、一旦は夢が潰えるところまで追い詰められた。まさに谷底に転落してしまったような状態だ。

だが、まだレースを諦められなかった。たまたま翌年、一つシートが空いたF4地方選手権FCクラス（旧FCJシャシーをモディファイしたマシンでF4と混走）に乗るため、両親に「これがラストチャンスだから」と頼み込んだ。この時は、初めて自分でスポンサー活動もし、バイトで稼いだ給料もすべてレースにつぎ込んだ。友達とも会わず、レースのためだけに毎日を過ごしていた。それでも、メインテナンスを請け負ってくれたレーシングチームのフィールドモータースポーツには、期日に間に合うよう料金を支払うことができない。だが、カート時代から坪井のスピードを耳にしていた福井宏尚社長は、実際にその走りや速さを見

て支払いを待った。福井は、かつて叔父の清志が率いるステラインターナショナルでトップカテゴリーに携わっていたが、独立してフィールドを立ち上げた時から常に「若手を育て上げたい」という強い気持ちで仕事を続けているからだ。

ここで精神面も鍛えられた坪井はシリーズ2位となり、FTRSへの復帰を果たす。翌2015年には「1年でチャンピオンを獲らないと、またクビだから」というプレッシャーを抱えながら、FIA F4選手権でタイトルをものにした。そして、F3にステップアップ。3年目となる昨年、圧勝劇を見せると、とうとう日本一高い所まで登ってきた。「カテゴリーを問わず、何に乗っても速い。アイツが来たらマズイと思われるような速さと強さがあるドライバーになりたい」。伸び代はまだ無限大。坪井はこれから先、どんな飛翔を見せるのだろうか。彼が大きく翼を広げる姿を思い浮かべて欲しい。

協力: JMS P.MU/CERUMO・INGING

Series Partner **HONDA TOYOTA**

Series Supporter **YOKOHAMA**

Promotion Partner **HITACHI**
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
RX0

SAKURA
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ

J SPORTS

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング

1 山本尚貴 Naoki YAMAMOTO 1988年7月11日生 / 栃木県



DOCOMO DANDELION M15 SF19

5 福住仁嶺 Nirei FUKUZUMI 1997年1月24日生 / 徳島県



DOCOMO DANDELION MSY SF19

昨年の最終戦で劇的な逆転勝利で見事チャンピオンを獲得、2013年以来2度目の栄冠に輝いた。8年間に在籍したTEAM MUGENを離れ、新天地でもその実力が期待される。

HONDA



http://www.naoki-yamamoto.com



8 大嶋和也 Kazuya OSHIMA 1987年4月30日生 / 群馬県



UOMO SUNOCO SF19

2011～12年にTEAM LEMANSに在籍し、2017年より再びチームに加入。名門復活に向けてチームを牽引する。昨年は5位が最上位。さらなる躍進が期待される。



https://twitter.com/oshima_kazuya



TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 ダニエル・ティクトゥム Daniel TICKTUM 1999年6月8日 / イギリス



TEAM MUGEN SF19

RANKING 1 POINTS

昨年はヨーロッパF3選手権に参戦し、ランキング2位を獲得。スーパーフォーミュラではTEAM MUGENからスポット参戦という形で2戦に出場し、今季はフル参戦する。



https://danticktum.com



KONDO RACING

コンドー レーシング

3 山下健太 Kenta YAMASHITA 1995年8月3日生 / 千葉県



ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に全日本F3王者となり、翌2017年スーパーフォーミュラに進級。その年の第4戦もてぎでは初のポールポジションを獲得。今季開幕戦で3位表彰台に立った。

TOYOTA



http://kentayamashita.jp



16 野尻智紀 Tomoki NOJIRI 1989年9月15日生 / 茨城県



TEAM MUGEN SF19

デビューした2014年に初優勝し、一躍注目の存在に。2015年から毎年ポールポジションを獲得と速さも折り紙つき。5年間に在籍したチームから今季移籍。さらなる飛躍なるか。



https://twitter.com/tomoki_nojiri



REAL RACING

リアル レーシング

17 塚越広太 Koudai TSUKAKOSHI 1986年11月20日生 / 栃木県



REAL SF19

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌年から現チームに移籍し、戦ってきた。開幕戦に出場したトリスタン・シャルバンティエに代わり、今大会から復帰を果たす。



http://www.tsukakoshikoudai.net/



UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモ スノコ チーム ルマン

7 アーテム・マルケロフ Artem MARKELOV 1994年9月10日生 / ロシア



UOMO SUNOCO SF19

レーシングカートから、フォーミュラレースに進み、ドイツF3やGP2、F2で戦ってきた。F2では昨年シリーズ2位。昨年は、ルノーF1のテストドライバーも務めた。

TOYOTA



http://amarkelov.com



carrozzeria Team KCMG

カロッツェリア チーム ケーシーエムジー

18 小林可夢偉 Kamui KOBAYASHI 1986年9月13日生 / 兵庫県



KCMG Elyse SF19

F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。優勝目まで行きながらまだ勝利はないが、今年こそ実現するか。2016年からは世界耐久選手権（WEC）でも活躍している。



http://www.kamui-kobayashi.com/



ここに注目!

SF19初走行のコースに予測が難しいレース展開

予選ではルーキーコンビの牧野任祐とアレックス・パロウ擁するTCS NAKAJIMA RACINGがフロントロウを独占。決勝では4回に渡るセーフティカー導入の末、12番グリッドからスタートしたニック・キャシディが優勝と、全く予想外の展開となった開幕戦。そこから約1ヶ月のインターバルを経て、シリーズ第2戦が大部分県オートポリスを舞台に行われる。

このオートポリス戦は、唯一本州から離れて行われるイベントとなるが、例年様々なドラマが生

まれる。昨年の決勝は、激しい雨に見舞われたため残念ながらキャンセルとなったが、今季はぜひ好天を期待したいところだ。九州のファンの前でニューシシー-SF19をお披露目する初の機会となるからだ。

そんな今年のオートポリス戦は、開幕戦以上に予測不能。前述のように、SF19にとって初走行になるというのがその理由の一つ。オフシーズンのテストは、鈴鹿サーキットと富士スピードウェイの2箇所で行われたが、他のサーキットに関し

ては開発車で収集されたデータしかない。SF14とSF19には共通部品も多いが、空力パーツは全くの新設計でダウンフォースバランスは違ってくる。また、HALO（ヘイロー）の義務付けによって重量バランスにも変化があった。さらにフロントタイヤが幅広になっている。そのため、クルマのセットアップも自ずと変わってくるはずだが、誰も自身のクルマでは実際にオートポリスを走行していないので、まずは金曜日の走り出しで持ち込みセットを確認しなければならない。

さらに予測不能な理由のもう一つは、ルーキードライバーが多いということ。日本人ドライバーや全日本F3を経験しているドライバーたちはオ

ートポリスでの走行経験を持つが、今季は全く未経験というドライバーが複数いる。鈴鹿でもそうしたドライバーたちがコースアウトやクラッシュするシーンがたびたび見られ、それが勝負の行方を左右した部分が多々あった。それと同じことが起こるのではないかと予想される。

その混乱の中で最後に笑うのは誰なのか。予選でコースレコードが更新されるのか、あるいは新たなオーバーテイクシステムや新スペックのソフトタイヤとミディアムタイヤのラップタイム差の効果で決勝中のバトルが増えるのかなど、今回も見どころ満載のレースになることだけは間違いのないだろう。

Team Pit

—— ピット割り

TCR	TCR	F3	50/51	F3	F3	F3	F3	F3	17		TCR	TCR	18	F3	F3	64/65	F3	F3	7/8	F3	F3	36/37	F3	F3	1/5	19/20	TCR	TCR	15/16	TCR	TCR	38/39	TCR	TCR	3/4										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46

第1コーナー(40R) >>>

Starting Grid

—— スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

No.	20	No.	18	No.	16	No.	14	No.	12	No.	10	No.	8	No.	6	No.	4	No.	2
No.	19	No.	17	No.	15	No.	13	No.	11	No.	9	No.	7	No.	5	No.	3	No.	1



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

イトウチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛

Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生／東京都



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

スーパーフォーミュラにデビューした2016年に2勝し、翌年にも2勝、昨年も1勝を挙げる活躍ながらまだタイトルの経験はない。今年こそチャンピオン獲得なるか。



<https://twitter.com/yuhisekiguchi>

20 平川 亮

Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生／広島県



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

2013年に19歳でスーパーフォーミュラにデビュー。昨年2015年以来3年ぶりに復帰し、初のポールポジション、2度の表彰台と光る走りを見た。今季は初優勝が期待される。



<https://twitter.com/ryohirakawa>

VANTELIN TEAM TOM'S

バンタリン チーム トムス

36 中嶋一貴

Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生／愛知県



VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2012、14年のチャンピオン。父は元F1ドライバーでナカジマ・レーシングの中嶋悟監督。自身もかつてF1で活躍した。昨年のル・マン24時間レースでは優勝を遂げている。



<http://www.kazuki-nakajima.com/>

37 ニック・キャシディ

Nick CASSIDY 1994年8月19日生／ニュージーランド



VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2017年にスーパーフォーミュラにデビュー、昨年は初優勝し、タイトルを争った。今季、コンドレーシングより移籍し、開幕戦で優勝。新チームで再び王座獲得を目指す。



https://twitter.com/nickcassidy_

JMS P.MU/CERUMO・INGING

ジェームス ピーエムユーセルモインギング

38 石浦宏明

Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生／東京都



JMS P.MU/CERUMO・INGING SF19

2015、17年のチャンピオン。現役では最年長ながら実力はトップレベルにあり、昨年も第5戦までで優勝し、最終戦までチャンピオンを争った。3度目の王座獲得を狙う。



<https://ameblo.jp/ishiura/>

39 坪井 翔

Sho TSUBOI
1995年5月21日生／埼玉県



RANKING
5
POINTS
4

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF19

昨年、圧倒的な速さと強さで全日本F3王者に輝く。高校生の時にフォーミュラレースに参戦し、2016年にF3へと進んだ。今季はスーパーGT500クラスにも昇格。注目の存在だ。



<http://xyz-one.jp/tsuboi/>

B-Max Racing with motopark

ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク

50 ルーカス・アウアー

Lucas AUER 1994年9月11日生／オーストリア



Red Bull SF19

RANKING
7
POINTS
2

ドイツ&ヨーロッパF3を経て、DTM(ドイツツリリングカー選手権)で活動。今季、レッドブルの後押しで参戦する。元F1ドライバー、ゲルハルト・ベルガーの甥に当たる。



<https://twitter.com/lucasauer1>

51 ハリソン・ニューウェイ

Harrison NEWWEY 1998年7月25日生／イギリス



GOLDEX TAIROKU RACING SF19

RANKING
—
POINTS
0

ジュニアフォーミュラ、F3を経て、昨年はスポーツカーレースに参戦。今季、日本のレースに初参戦を果たす。父はレーシングカーデザイナーのエイドリアン・ニューウェイ。



<https://www.harrisonnewwey.com>

TCS NAKAJIMA RACING

ティーシーエス・ナカジマレーシング

64 アレックス・パロウ

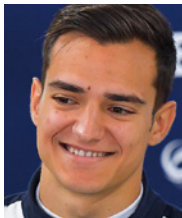
Alex PALOU 1997年4月1日生／スペイン



TCS NAKAJIMA RACING SF19

RANKING
—
POINTS
0

2017年に全日本F3で鮮烈デビューし、年末のスーパーフォーミュラルーキーテストでも速さを見た。昨年はユーロF3を戦ったが今季はスーパーフォーミュラに初参戦する。



<https://www.alexpalou.com>

65 牧野任祐

Tadasuke MAKINO
1997年6月28日生／大阪府



TCS NAKAJIMA RACING SF19

RANKING
9
POINTS
1

カート時代に頭角を現し、2016年に全日本F3へ。ユーロF3を経て昨年はFIA F2を戦い、日本人初のレース1優勝。今季デビューの開幕戦でポールポジションを獲得した。



<http://team-tadasuke.com/>



千代勝正が語る オートポリス

ターン12のセッティングが最大のポイント

1コーナー(①)は少しバンクがあってクルマが跳ねるので、ブレーキがロックしやすい傾向

にあります。でも、スーパーフォーミュラの場合はバンクを越えてからのブレーキングになり、結構突っ込んでいけるコーナーですね。オーバーテイクポイントでもあります。ただ、下ってからのブレーキングなので、イン側の縁石が結構見辛くてタイミングは取りにくい。また、1コーナーでは立ち上がりも重視しますね。

続く2コーナー(②)はゆるい直線みたいな感じ。ターン3(③)からターン6(⑥)までは連続しているんですけど、ターン3はダウンフォースを生かして、入口のスピードを高めに保ったままパンと入っていきます。そこからターン4(④)に向かってはアンダーステアが出やすい場所。左、左と続くターン4、ターン5(⑤)は、イン側の縁石につきながら、アクセルコントロールで曲がっていきます。そのためにターン3は

あまり膨らみ過ぎないように、コースの中間ぐらいで立ち上がります。ターン6はヘアピン。決勝中、タイヤが消耗してくるとトラクションが悪くなるコーナーの一つですね。

このターン6の立ち上がりからターン8(⑧)にあたる100Rは、今のマシンだと4速で、多分アクセルを“ちょい戻し”ぐらいで抜けていく高速区間になります。決勝ではターン6の立ち上がりによって結構差が出ると思いますね。

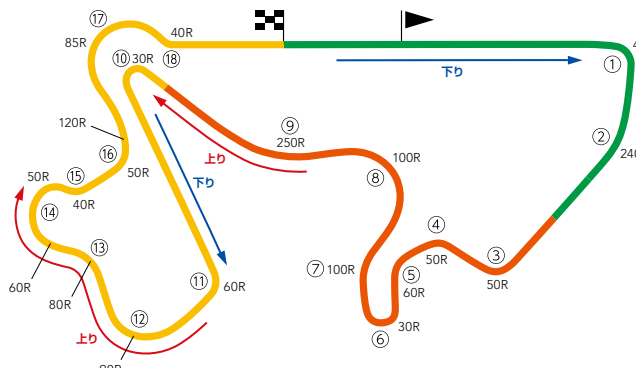
ほぼ直線のターン9(⑨)を抜けた後の、通称第2ヘアピンと呼ばれるターン10(⑩)もオーバーテイクポイントの一つ。100Rからスピードを乗せて、ブレーキングでインに入るとというのがよくあるシチュエーションです。でも、思い切りインに飛び込んだ場合、相手にクロスラインでポジションを取り返されることも多いですね。かといって、中途半端にインに入っていくとぶつかります。ここは入口が上りでクリップが頂点。そこから下っているの、クリップの辺りでは先が見えませんが、その先の下りのストレートで速度を

乗せるために、立ち上がりも重要ですね。

ターン11(⑪)は下りながらのブレーキからターンインしますが、かなり速いコーナー。出口の縁石に乗り過ぎると結構跳ねて飛び出すケースが多いです。ルーキーにとってはチャレンジングなコーナーでしょうね。

続くターン12(⑫)から先の上り区間はかなり差が出る場所。ターン12はターン11の勢いのままアクセルコントロールだけで回り込むんですけど、その先はすごい上っているんです。だからターン12でスピードを殺し過ぎないようにしないといけない。そのためにターン12でアンダーステアが出過ぎないセッティングが重要です。そこがオートポリスのテーマ。ターン12がキツイとその先も厳しくなりますし、リズムが大切です。

ターン14(⑭)から16(⑯)は複合コーナーで、14の入口のスピードもライン取りも重要。ターン14、15を一つのコーナーのように走るのが大切です。ターン16はアクセルを一瞬戻すぐらいで、スピードを乗せたまま最終手前のターン17(⑰)へ。ここは結構回り込んでいるので外まで行き過ぎずに。メインストレートのスピードを伸ばすために立ち上がりも大切ですが、ターン17の入口でもスピードを殺し過ぎないことが重要。速度を乗せたまま入って、クルマのコーナリング性能ギリギリを使っていきます。ギヤも3速だったり4速だったり選手によって違いますし、ラインも色々で、ドライバー個々の特徴が出やすいですね。最終コーナーとなるターン18(⑱)は、カクッと曲がっているだけなのでほぼ全開です。



COURSE DATA
全長: 4.674km
コースレコード: 1'25.779
小林可梦偉(KCMG Elyse SF14)
2018.5.12

千代勝正(ちよかつまさ)

昨年まで全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦し、今季はインターナショナルGTチャレンジにフル参戦する現役ドライバー。今季は全日本スーパーフォーミュラでビッテポーターとしても活躍する。

過去3年の結果 (優勝者 | PP)

2018	悪天候のため中止	平川 亮 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	2017	P.ガスリー (TEAM MUGEN SF14)	野尻智紀 (DOCOMO DANIELSON M40S SF14)	2016	未開催
------	----------	---------------------------------------	------	-----------------------------	--------------------------------------	------	-----

SHORT INTERVIEW

TEAM MUGEN監督
中野信治

キーワードは「変化」。それをどう起こせるか

Q：無限との縁は30年超だと伺いました。

「15歳、カートのときからです。モータースポーツという部分では、僕におけるルーツです。自身のレースで最後に仕事を一緒にしたのは97年のF1。それ以来の仕事ですが、不思議な縁を感じます。監督の話があったとき、正直僕でいいのかなと思いました。スーパーフォーミュラはチャンピオンを輩出したチームですし、スーパーGTでも結果を求められる環境にあるので非常に大きな責任を伴う役割ということで、正直ちょっと迷いました」

Q：海外での活動が長いぶん、日本のレースに関わることに戸惑いはなかったですか？

「一昨年からホンダさんとスーパー耐久に出ることになり、いろんな縁を感じています。最終的にお受けしたのも、運命みたいなものを感じたからです。もちろん、プレッシャーもありました。僕がやっていいのか、務まるのか考えさせられましたが、役割が自分に巡ってきたのかと思うようになりました。向こ

うからやってくる話は、基本その流れを受け止めていいのではないかなと思ったんです」

Q：チームドライバーの印象は？

「野尻はレースに対しての取り組み方が真面目。その姿勢にとっても関心しました。仕事の進め方に共感できたので、仕事がしやすいです。僕が何も言わなくても自らの意識でキチンとやっていて、安心感があります。ただ、長くやっていると当たり前になってきている部分がある。それを取り払う役割ができたと思います。行き詰まったときに“こういうのがあるよ”と僕のほうで伝えてあげられたらいいかと。ダン（ティクトゥム）は注目されているし、潜在能力も高いと思います。ただ、速さやクルマを走らせるセンスだけではこのクラスで結果は出せないで、彼のパーソナリティを押さえ込むことなくいい方向に伸ばしてあげられたらいいですね」

Q：初の監督業で意識することは？

「僕の中でのキーワードは“変化”。それを

なかの・しんじ

1971年4月1日生まれ、大阪府出身。
F1、アメリカ・CART選手権、ル・マン24時間と、日本人初となる世界三大レース出場を果たすなど、海外でのレース活動が長く、国際派ドライバーとして知られる。今シーズンからスーパーフォーミュラ、スーパーGTでTEAM MUGENの監督を務めることになった。一方で、スーパー耐久シリーズに2017年から参戦中。



チームに起こすのが、僕の役割でないかと思っています。基本的に、チームはこれまで蓄積してきた経験とやり方ですでに機能しています。それを尊重しつつ、『変化しなきゃ!』とみんなのマインドが変わってくることが重要だと思っています。自分自身が今まで経験したことをアウトプットしていい組織作りをしていけたらと思います」

Q：どのような“変化”に期待しますか？

「島国の中で長くレースをしていると、すごくいい部分と失われてしまっている部分があ

ると思うんです。失われてしまった部分を掘り起こしていい部分と上手くミックスさせることができれば、もっといいものへ変化していくと思います。物事を違った角度から見ることを自発的にしてもらうということですかね。変化に対して敏感になっていけたらと思います。僕も新しい挑戦であり、経験になるので、どういうやり方が正しいかの答えはまだありませんが、こういうやり方もあるのでは？と自分の中でもトライ＆エラーをやりながら創造していきたいですね」



観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……
公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利！
<http://superformula.racelive.jp/>



リザルトやコメントを見るなら……
公式サイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載！
<http://superformula.net>

リアルタイムな情報収集には……

Twitter

SUPER FORMULA公式アカウント @super_formula

TOYOTA GAZOO Racing @toyota_gr

HondaモータースポーツLive @hondajp_live

公式ハッシュタグは「#sformula」

記事やダイジェスト動画は……

●**Facebook**

スーパーフォーミュラオフィシャルfacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

●**YouTube**

YouTube公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

お求めは
場内売店か
公式サイトへ！



SUPER FORMULA OFFICIAL SHOP

**全日本スーパーフォーミュラ選手権
2018年総集編DVD発売中!**

世界が注目する国内トップフォーミュラ、SF14ラストイヤーとなる激動の1年間を振り返る。2018年シーズンの全7戦をダイジェストで収録。完全保存版！

特典映像：SUPER FORMULA 2018
シーズンPV、SF19 デモラン（佐藤琢磨&中嶋一貴・ランデブー走行）
価格：5,400円(税込)

**全日本スーパーフォーミュラ選手権
第2戦 オートポリス 公式プログラム販売中**

メインスタンド裏イベント広場内AP
オフィシャルブースおよびコントロールタワー1Fで販売しています。

価格：1,000円(税込)



CLUB F
SUPER FORMULA
OFFICIAL FAN CLUB

**オフィシャルファンクラブ CLUB F
新規会員受付中!**

年間バスの販売や各大会ごとのオリジナルチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定! 詳しくはオフィシャルサイト(<https://superformula.net/sf2>)内のファンクラブページをご覧ください

amsc
AUTOBACS Motorsports Conference
オートバックス モータースポーツ連絡協議会

KRS
KTEL RACE SERVICE

TV放映／映像配信

BSフジ

BSフジ 決勝レース中継

『2019スーパーフォーミュラ選手権 第2戦オートポリス』

今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の午後5時～6時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レースの見どころ、ルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただけます。実況はフジテレビでのモータースポーツ実況経験を持つ野崎昌一が担当。解説にはモータースポーツジャーナリストの古賀敬介があたります。また現役ドライバーでもある千代勝正がビットレポーターを務めます。

○放送時間：5月19日(日) 午後5時00分～6時55分



BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

スーパーフォーミュラの情報番組としてホットな話題を提供する「スーパーフォーミュラGO ON!」。今年は、国内外から多くの若手ルーキーなど注目ドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎えてお送りします。番組の進行役は本田朋子アナ、ナレーターは乃木坂46の樋口日奈が担当します。

○放送時間：第3回 6月14日(金) 深夜 0時00分～0時55分
6月16日(日) 深夜 1時20分～2時15分(再放送)

J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェストも放送します。

○放送時間：5月18日(土) 午後2時50分～5時00分
5月19日(日) 午後1時30分～4時30分



J SPORTS1
J SPORTS1

GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信予定。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>



TIME SCHEDULE タイムスケジュール

RACE レース	
5月18日(土)	
8:10- 8:30	N-ONE 予選
8:50- 9:50	SUPER FORMULA フリー走行
10:10-10:40	F3 予選
11:15-	N-ONE 決勝
11:55-12:40	ビットウォーク
13:05-13:25	TCRJ サタデーシリーズ 予選
14:05-	F3 第3戦 決勝[14Laps]
15:00-15:20	SUPER FORMULA 公式予選(Q1)
15:30-15:37	SUPER FORMULA 公式予選(Q2)
15:47-15:54	SUPER FORMULA 公式予選(Q3)
16:30-	TCRJ サタデーシリーズ 決勝[23min+1Laps]
17:15-18:00	キッズビットウォーク

5月19日(日)	
8:10- 8:30	TCRJ サンデーシリーズ 予選
8:50- 9:20	SUPER FORMULA フリー走行
10:05-	F3 第4戦 決勝[14Laps]
10:55-11:45	ビットウォーク
12:25-	TCRJ サンデーシリーズ 決勝[23min+1Laps]
14:00-	SUPER FORMULA 決勝[54Laps]
16:15-	F3 第5戦 決勝[21Laps]

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。

EVENT イベント	
5月18日(土)	
8:15- 8:25	オープニングステージ MC：水村リア、笠原美香
8:25- 8:40	サーキットクイーンステージ 出演：オートポリス&SPA直入サーキットクイーン MC：水村リア、笠原美香
10:40-10:55	SFビキナーズトーク 出演：YOKOHAMA promotional models MC：水村リア、笠原美香
11:00-11:20	SFドライバートーク 出演：平川亮選手、ルーカス・アウアー選手 MC：水村リア、笠原美香
12:30-12:45	SF監督トーク 出演：中野信治監督、本山哲監督 MC：ビエール北川、笠原美香
13:45-14:00	SF予選直前トーク 出演：野崎昌一 MC：ビエール北川、笠原美香
16:00-16:30	レースクイーンステージ 出演：各チームレースクイーン MC：笠原美香
16:45-17:15	復興支援日本赤十字社チャリティーオークション MC：ビエール北川、笠原美香
17:30-17:50	テクノロジーラボラトリー 出演：両角岳彦、浅見理美 スペシャルゲスト MC：笠原美香

5月19日(日)	
7:50- 8:00	オープニングステージ MC：笠原美香
8:15- 8:30	サーキットクイーンステージ 出演：オートポリス&SPA直入サーキットクイーン MC：笠原美香
9:00- 9:30	レースクイーンステージ 出演：各チームレースクイーン MC：笠原美香
9:50-10:20	復興支援日本赤十字社チャリティーオークション MC：ビエール北川、水村リア、笠原美香
11:00-11:15	SF決勝直前トーク 出演：千代勝正 MC：水村リア、笠原美香
11:45-12:00	SFボールポジションドライバートーク 出演：ボールポジション獲得ドライバー MC：ビエール北川、笠原美香
12:15-12:30	SFビキナーズトーク 出演：YOKOHAMA promotional models&スペシャルゲスト MC：笠原美香
16:00-16:20	テクノロジーラボラトリー 出演：優勝チームエンジニア、両角岳彦、浅見理美 MC：水村リア、笠原美香
16:25-16:40	SF優勝ドライバートーク 出演：優勝ドライバー MC：ビエール北川、水村リア、笠原美香